

第6次子ども総合計画策定に向けたワークショップ

1 実施概要

(1)開催日・場所

5月26日(日)及び6月1日(土)に、福岡市美術館アートスタジオにて開催

(2)参加状況

小学生、中学生、高校生世代、若者(18～39歳)、保護者の区分で計5回実施し、計65名が参加

<当日の様子>



2 当日の実施内容

(1)ガイダンス

目的や進め方、参加にあたってのルール(意見の尊重や守秘など)等を説明

(※小・中学生には、子どもの権利について併せて説明)

(2)アイスブレイク

自己紹介や参加の動機、5年後・10年後の自分のイメージなど

(3)グループワーク

4～5名程度のグループに分かれ、ファシリテーターがサポートしながら様々なテーマについて意見交換

(※途中でグループメンバーの入れ替えを実施)

(4)まとめ

「すべての子どもが夢を描けるまち」にするために必要だと思うことを、各自で画用紙に表現

3 参加者の意見

別紙のとおり

4 実施後アンケート

ワークショップ終了後にアンケートを実施し、58名が回答

- ・参加して良かったと感じたこと(複数回答可)については、**「他の参加者と意見交換ができた」が91%**と最も多く、次いで**「自分の意見を十分に伝えることができた」が69%**となった。
- ・足りないと感じたこと(複数回答可)については、**「時間が足りなかった」が80%**で最も多い。

＜参加者の意見＞

小学生	・社会科見学など実物を見て学べる時間を増やしたり、英語は道案内など実際に使う場面を想像できるように学べたりするといい。 ・なりたい職業について調べたり、実際に働いている人に聞いたりしてみたい。 ・プログラミングやアニメーションを学びたい。 ・塾や習い事で忙しく、自由な時間がない。 ・タブレットのスペックが低い。タッチペンの反応が悪い。回答を間違うと問題が追加されるが、解説をしてほしい。英検用のコースをつくってほしい。タブレットかノートか選べるようにしてほしい。 ・タブレットを家に持ち帰れるようにしてほしい。 ・親の帰りが遅いので寂しい。もっと早く帰ってきてほしい。 ・父は仕事ばかり。もっと一緒に過ごしたい。病気でも休めない。休ませてほしい。 ・母は早く帰るけど家でも仕事している。周りの人、助けてあげてほしい。 ・母がPTAで夜に出かけるのを減らしてほしい。
中学生	・英語やプログラミングをもっと学びたい。 ・学校では社会に出てからのことも学びたい。人間性やコミュニケーション、子育ても学びたい。 ・いじめのアンケート調査や報告の義務化などの取組みをもっと進めてほしい。 ・いじめを受けた人の相談窓口を充実してほしい。 ・電話相談はどんな人が出るか分からないから、かけにくい。相手が大人だと勇気がいるので、キャラクターとしゃべる感覚で相談できたら話しやすいかもしれない。 ・先生へ相談できるかは、その先生による。個人面談は先生を選べると良い。 ・子どもに寄り添える人が先生になってほしい。 ・先生も不足している。ハードワークで負担が大きい。 ・いじめた側へのペナルティが必要。 ・ただ謝らせて終わりではなく、その後もいじめが起きないようにしてほしい。 ・いじめるのは虐待を受けた人だったりする。いじめや虐待を予防する教育が必要。 ・タブレットの問題ドリルを改善してほしい。 ・タブレットを持ち帰って、もっと調べものをしたい。 ・バスの子ども料金を中高生にも適用してほしい。 ・子どもの意見が反映されない。
高校生世代	・福岡市は大学の選択肢が少ないので、大学を増やしてほしい。 ・高校・大学を無償化してほしい。遠方を含め選択肢を増やしたい。 ・校則などもっと生徒の意見を尊重してほしい。 ・昼休みをもっと長くしてほしい。 ・英語について、文法ではなく話せるようになる教育を充実させてほしい。 ・いじめ防止に向け、小学生からの道徳教育の充実や、校長のマネジメントの強化をしてほしい。 ・フリースクールへの通学を出席扱いするなど、多様な学びを認めてほしい。 ・地域にボール遊びができる場所を作してほしい。部活等に参加しないと球技ができない。
若者	・先生を含め大人の負担が大きく、心の余裕がないため、子どもに向き合えない。 ・親が悩みや困りごとを吐き出せる場所が必要。 ・子どもの相談先が少ない。学校外や親以外に子どもの相談先を広げてほしい。 ・子どもは交通手段と時間に制限があるので、相談先は交通アクセスを考えてほしい。また、子どもが分かりやすい、相談したくなるアプローチなどを考えてほしい。 ・今の子どもはSNSでつながり、支えになる人もいるのに、大人が理解してくれない。 ・図書館の時間をもっと長くしてほしい。 ・幼少期から国際交流の場があると良い。 ・障がい児の教育について、学校も制度も遅れている。 ・子ども食堂の開催頻度が増えると良い。 ・子どもだけのイベントなど、子どもが主役になれる場をつくってほしい。 ・もっと子どもや若者の意見を聴く機会やイベントを増やしてほしい。

保護者	<学校関連> ・多様性やインクルーシブを取り入れ、それぞれの発達に応じた学びを保障してほしい。 ・子どもが学びたいこと、やりたいことをさせてほしい。個性を尊重してほしい。 ・学力ではなく、子どもたちの心を育む教育にしてほしい。そのための対話を増やしてほしい。 ・スクールカウンセラーを終日学校に配置してほしい。 ・福岡市からホームスクーリング制度を認めてほしい。海外では制度が整っている。 ・フリースクールの出席認定の要件を緩和してほしい。費用を助成してほしい。 ・教育費の心配をせず子育てができる社会が必要。 ・学校の授業だけでは受験などを乗り切れないというのはおかしい。塾に行けない子どももいるので、もっと塾などのノウハウを学校側が取り入れてはどうか。 ・退職した教員に指導してもらえる勉強の場がほしい。 ・グローバルスタンダードを目指し、PISA(国際学力調査)を福岡市から始めてほしい。 ・小中の連携が必要。 ・中高一貫校を増やしてはどうか。 ・内申点が大きく影響する高校入試制度はやめてほしい。 ・高校入試は子どもを追い詰める制度になっている。市立高校から廃止してはどうか。 ・教育の中で、様々な職業や生き方を子どもたちに見せてあげられるとよい。 ・小中学生による企業や行政、議会の社会科見学の機会を増やしてほしい。 ・子どもの意見を取り入れた学校づくりが必要。 ・教員が不足している。教員を増やし、子どもたちを複数の視点で多面的に見てほしい。 ・教員が何でも背負っている状況の改善や、教員が相談できる環境づくりが必要。 <地域の子育て環境> ・地域によっては、保育園への入所が難しい。 ・赤ちゃんの駅や一時預かりをもっと増やしてほしい。 ・ファミサポや病児保育は気を遣う。預け先への不安もある。 ・孤立感の解消や情報共有のために、保護者が集える場がほしい。 ・保護者同士がつながる地域カフェをつくってほしい。気軽に足を運べる居場所がほしい。 ・歩いて行ける距離に子ども食堂がほしい。市内で配置にバラつきがある。 ・子ども分野の公民館活動にもっと力をいれてほしい。様々な家庭へ情報を届ける手段として公民館が有効ではないか。ひとり親家庭を地域で支える手段としても有効ではないか。 ・ボールで遊べる公園がほしい。小さな子と大きな子が一緒に遊ぶ場所でのルールが必要。 <支援へのアクセス> ・年齢に応じて利用できるサービスや申請方法を簡単に調べられるアプリをつくってほしい。 ・利用できる施設やサービスをまとめたロードマップがほしい。 ・転勤族は利用できる施設やサービスの情報がない。どこに聞けば良いかも分からない。 ・親がふらっと相談できる場があると良い。えがお館は虐待のイメージがあり、相談しにくい。 <障がい児支援> ・障がいの有無に関わらず、子ども一人ひとりにキャリアプランがあると良い。 ・障がい福祉サービスの利用の手続きが難しく煩雑。 ・障がい児の親の孤立感を軽減してほしい。 ・大人がもっと子どもの発達について学ぶ必要がある。 <その他> ・男性も育休 100%取得を。期間も大事。育児の負担が母親だけにかかっている。 ・ひとり親家庭への支援について、収入での線引きに疑問。 ・習い事応援事業の対象が生活保護・児童扶養手当受給者に限定されていることに疑問。
-----	--